

No	11												
指標名	地域分娩貢献率												
定義	<p>(分子)院内出生数  (分母)二次医療圏内の出生数  ※二次医療圏・・・当院は松山区医療圏(松山市、伊予市、東温市、松前町、野郎町、久万高原町)</p>												
結果	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>本院 (%)</th> <th>全国中央値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015年度</td> <td>26.7%</td> <td>13.7%</td> </tr> <tr> <td>2016年度</td> <td>25.0%</td> <td>15.7%</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>26.5%</td> <td>14.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(当院)2015年度、2016年度、2017年度における当院のデータ  (全国)2015年度、2016年度、2017年度に実施した病院の中央値 (2018/04/25 時点  ※他院との詳細な比較につきましては「<a href="#">全国自治体病院協議会 医療の質の評価・公表等推進事業</a>」のページをご参照ください。</p>	年度	本院 (%)	全国中央値 (%)	2015年度	26.7%	13.7%	2016年度	25.0%	15.7%	2017年度	26.5%	14.4%
年度	本院 (%)	全国中央値 (%)											
2015年度	26.7%	13.7%											
2016年度	25.0%	15.7%											
2017年度	26.5%	14.4%											
コメント (解説)	<p>データから二次医療圏内での分娩貢献率は一貫して全国中央値よりも高く維持されています。それに加えて当院総合周産期母子医療センターの特徴は、愛媛県の基幹周産期医療施設として、県内全ての周産期医療機関と連携し、合併症妊娠・多胎妊娠・切迫流早産・胎盤位置異常・胎児異常などのハイリスク妊娠・分娩の母体や出生体重1000g未満の超低出生体重児や先天異常など病的新生児を、24時間体制で受け入れている点です。</p> <p>2017年分娩総数1241、うち緊急帝王切開273、予定帝王切開198、緊急母体搬送 248、非緊急母体搬送823で、愛媛県内ハイリスク分娩の半数以上を受け持っており、二次医療圏のみならず、愛媛県全体において周産期医療の中心的役割を果たしています。</p>												